



2020

CSR Report

共創のCSR

サステナブルな事業と職場を
社会と、社員とともに。

■ 報告の対象範囲ほか

報告対象組織 東亜道路工業株式会社およびグループ企業
報告対象期間 2019年4月1日～2020年3月31日
※一部当該年度後の情報も掲載しております。
報告対象分野 環境・社会(社会的責任関連全般)
連絡先 CSR推進本部 企業倫理推進室
〒106-0032 東京都港区六本木七丁目3番7号
TEL.03-3405-1811 FAX.03-3405-9800

INDEX

■ トップメッセージ	P3
■ データで見る東亜道路工業	P4
■ 特集1 環境と共生する	P5
■ 特集2 まちの未来づくりへ	P9
■ 特集3 コミュニティの一員として	P13
■ こび×社員クロストーク はたらくことで、拓いていく「道」	P15
■ より安心で安全な職場へ (人権・労働慣行・労働における安全衛生)	P17
■ 誠実でクリアな企業づくりのために (コーポレートガバナンス・公正な事業慣行)	P20
■ 持続的な成長を目指して (品質向上のために・お客様アンケート)	P22
■ 関連会社のCSR	P23
■ ISO26000	P24
■ 第三者意見	P24
■ 一人ひとりのCSR	P25

環境負荷の低い工法・製品を積極的に開発・使用し、地球環境保全や持続可能な社会の実現に寄与する。



代表取締役社長 森下 協一

東亜道路工業グループは、1930年の創業以来、「道路建設」、「道路舗装材料の製造・販売」を中心とした事業を通じて、社会資本の整備に取り組むことで産業・経済の発展や安全・安心な社会の構築の一翼を担ってきました。

近年、当社グループを取り巻く環境は、かつてないスピードで変化しており、年々厳しさが増す状況にあります。「労働力不足」、「長時間労働の是正」、「原材料費の高騰」、「新型コロナウイルス感染症」等、対処すべき課題は枚挙にいとまがありません。これらの課題は簡単に解決できるものではありませんが、グループ全員が真摯に向き合い、知恵を出し、本気で取り組み、グループ内の人材交流と社員教育並びに技術の共有を推進し、グループ間・部門間連携による総合力で問題解決の糸口を見つけ出していきたいと考えております。

当社グループの一番の強みは多様な知識と経験を併せ持つ人材です。これらの人材がその持てる能力を一層発揮し、当社グループの更なる活性化を図るために、「ダイバーシティ」と「インクルージョン」の推進に注力してまいります。

多様な人材がお互いの個性、能力、ライフスタイルを尊重し、認め合いながら、それぞれの立場で会社業務に参画・貢献できるような環境整備を進めております。認められ、任されることで自身の成長を実感し、常に「挑戦」し、自分の「発想」を信じ、恐れず「実行」することが重要と考えております。

創立100周年にあたる2030年に当社が目指すべき姿は、「環境負荷を低減する工法・製品を積極的に開発・使用し、地球環境保全や持続可能な社会の実現に寄与すること」です。その社会で求められる当社新技術は、「アスファルト代替バインダー」「CO₂排出削減に繋がる常温舗装材・補修材」「人にやさしい舗装」「道路維持のコスト削減」であると想定しております。これらへの取組事例として、植物由来の「BIO(バイオ)バインダー」、製造時の加熱温度を低減する「エコバインダー」、常温で舗装できる「コールドパーミックス」「ファスト・アス」、視認性が高くすべりを抑制する「EGカラー」、ヒアリ対策に有効である「RC常温メンテ」、舗装の維持・管理コストの低減を支援するアプリ「舗装点検」「ポットホールメジャー」等があります。これらの技術の提供により、SDGsのゴール11「住み続けられるまちづくりを」にある「環境上の悪影響を軽減すること」及び「人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供すること」への貢献にも繋がっていくと確信しております。

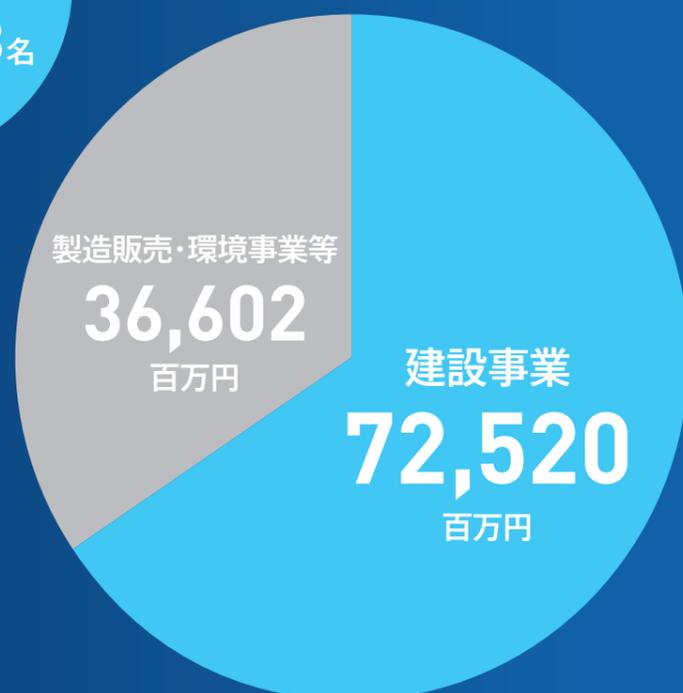
これからも、多くのステークホルダーの皆様の大きな期待に応えられるよう、社会の課題解決に目を向け、新しい変化を創りだし、持続的成長の実現に向けて取り組んでまいりますので、引き続きのご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

データで見る東亜道路工業

従業員数



事業比率(売上実績)



売上高(連結)



経常利益(連結)



会社概要 (2020年6月30日現在)

社名	東亜道路工業株式会社 TOA ROAD CORPORATION	
本社所在地	〒106-0032 東京都港区六本木七丁目3番7号	
資本金	75億8,418万円	
建設業者許可番号	国土交通大臣(特-1)第3226号	
役員	代表取締役社長	森下 協一
	代表取締役専務執行役員	堀之内 悟
	取締役常務執行役員	竹内 良彦 浅井 敏夫
		中村 浩
	取締役	高田 敏明 楠美 雅堂
	常勤監査役	森 信一 野田 雅之
	監査役	藤田 浩司
	専務執行役員	池田 道政 杉崎 匡孝
	常務執行役員	松村 高志 松浦 壽彦
		緒方 秀二 新谷 章
		福原 静夫
	執行役員	池田 卓文 大竹 哲也
		岩佐 次弘 田口 正之
		村山 雅人 大竹 和彦

事業所数

- 支社
北海道支社・東北支社・関東支社・中部支社・関西支社・中四国支社・九州支社
- 支店
宮城支店・東京支店・横浜支店・千葉支店・茨城支店・北関東支店・北陸支店・中京支店・四国支店
- 営業所
40営業所
- 技術研究所
1カ所
- 製品工場
24工場
- 合材工場
45工場
- 関係会社
25社



環境と共生する

東亜道路工業グループは、事業を通して、地球環境保全(汚染の予防)を目指し、省資源や課題解決の取り組みを積極的に行うことを通して、豊かな自然や資源を次世代に継承していきます。



多伎・朝山道路(鳥根県出雲市/2019年開通) 自然災害が多発していた、急カーブが続く峠道。自然と共生し、交通の課題を解決するために整備された自動車専用道路です。

環境負荷低減への継続的な挑戦

環境負荷低減に寄与する製品・工法の開発



バイオマス度87% 植物由来の舗装材料「HSバインダー」

東亜道路工業は脱アスファルト舗装の実現を目指しています。「アスファルトを使わずに道路を造れないか?」このコンセプトのスタート地点に、「HSバインダー」があります。「HSバインダー」はバイオマス度87%の植物由来油(HS添加材)をアスファルトに配合した、環境にやさしい舗装材料です。骨材と混合して「HSアスコン」として舗設され、高い耐久性と耐油性を実現します。本技術は、植物由来油をさらに高濃度で用いる橋梁用高剛性舗装「HiRAC工法」や植物由来油100%バインダー舗装材 BIO(バイオ)舗装に活用されています。



施工時間短縮によるCO₂削減 速分解型アスファルト乳剤「タックファインSQ」

アスファルト乳剤に分解促進剤を合わせて散布することで、大幅に養生時間を短縮することができます。この技術を確立したのが速分解型アスファルト乳剤「タックファインSQ」です。この製品を適用することによって工事全体の時間が短縮され、工事によって排出されるCO₂が削減されます。

Action 積極的な環境貢献

薄層舗装の耐久性に関する研究

材料使用量やCO₂排出量の低減につながる薄層舗装の長期的な供用性を確認するため、施工から3年間の追跡調査を実施し、得られた成果を学会で発表しました。



10年以上にわたる植樹と管理

東北支社秋田営業所では、10年以上にわたり、国道13号線河辺町の植樹帯2カ所に花を植え、維持管理を実施。また宮城支店では、仙台市おもてなし花壇事業に参画しています。



01 特集 [Creating Shared Value]

環境と共生する

資源の再利用

資源の再利用 ※東亜道路工業全合材工場のデータ

再生アスファルト合材の製造比率 **84.4%** 再生骨材の混入比率(全体に対して) **43.4%**

再生アスファルト合材とは、供用されたアスファルト合材(アスファルト塊)を回収・処理した再生骨材と新しいアスファルト合材と混ぜ合わせたものです。中間処理施設を併設している合材工場では、積極的にアスファルト塊を受け入れ、再利用を図っています。再資源化率は概ね100%であり、再資源化された再生骨材は合材製造に用いられています。

路上路盤再生工法の推進



既存の舗装材を原位置で再利用する路上路盤再生工法(再生CAE工法)は、グリーン購入法の特定調達品目の工法に位置づけられ資源再利用に有効であることから、積極的に推進しています。常温工法なので加熱工法と比較してCO2排出量を50%軽減できると言われており、震災被害の低減にも有効です。

ライフサイクルコストの低減



舗装の点検をサポートするアプリを無償配布

当社は、舗装の表面処理工法など道路舗装の予防保全技術の開発・普及に取り組んでいます。損傷が軽微なうちに適切に補修することで、舗装の延命化を図り大規模修繕に伴う環境負荷を低減します。また、予防保全を適切に行うためには定期的に舗装の状態を把握することが重要で、この調査の際に役立つツールとして、簡単に舗装の状態を記録することができる「舗装点検」、ポットホールを撮影して容積を算出し必要な補修材の量を計算する「ポットホールメジャー」の2つのアプリを無償で配布しています。

2019年度環境目標に関する報告

CO2排出量の削減

2019年度実績 **4.7%** 削減

CO2排出量は、前年度48,109t-CO2から45,857t-CO2と、4.7%削減しています。

エネルギー使用量の削減

オフィス 事務所業務における **省エネルギー促進**

2019年度使用量 昨年度比 **98.9%**

工場(製造) 電力使用量(2017年度比) 原単位 **3.0%/t 削減へ**

製品 2019年度使用量 達成率 **91.7%/t**

合材 2019年度使用量 達成率 **85.4%/t**

改正省エネ法の求める「年平均1%以上のエネルギー消費原単位の低減」を達成すべく、中長期計画を策定し省エネに取り組んでいます。オフィス部門は達成していますが、工場は受注生産のために稼働率が高まらず、未達成となりました。

フロンガス排出抑制

漏洩量 **0t-CO2**

空調機器管理台帳の作成・見直しを全社で行い、法的頻度の点検を実施しています。

環境配慮型工法・製品のPR・販売

工事営業 計画受注件数の80%以上へ

2019年度環境配慮型工法受注件数

420 件 計画の **102%**

環境配慮型工法への積極的な設計営業に取り組み、本年度の目標を達成しています。

製品営業 2019年度目標 **22,545t**

2019年度環境配慮型製品販売量

23,569 t 達成率 **105%**

東北支社及び関西支社ではそれぞれ前年度比の135%、128%を達成。環境配慮型製品の積極的な販売に注力しています。

建設機械のCO2発生削減のためにICT施工活用

工事 ICT活用件数(前年度比) **20%UP**

2019年度ICT活用件数

56 件 前年度比 **112%**

ICT施工によって施工効率が大幅に向上した現場が増えてきました。施工時間の短縮によって建設機械のCO2排出量も削減されます。それだけでなく、安全性や施工精度の向上といった付加価値も実感しています。クラウドサービスやウェアラブルカメラを利用した取り組みも増えており、更なる削減効果が期待されます。

環境マネジメントシステム

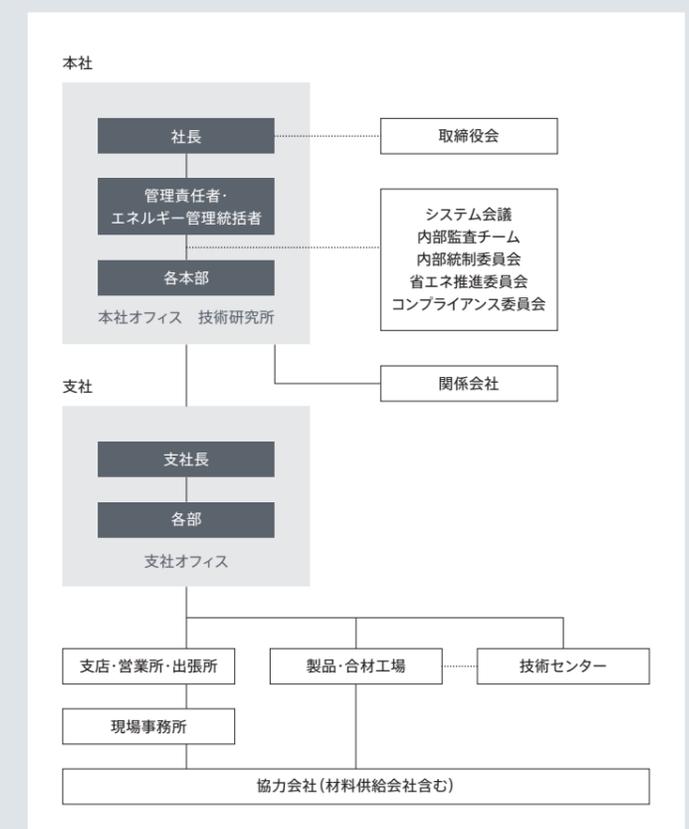
環境基本方針

社会の持続的な発展のためには環境保全(汚染の予防)や省資源のための活動が重要である。当社はそれらの活動を基本的なことと位置づけ、その環境方針を以下に定める。

- 1 当社は事業活動を進めるにあたって、省エネ・省資源活動や建設副産物の適正処理に努め、環境負荷の軽減を図り、環境の保全に寄与する。
- 2 さらに、環境に配慮した舗装材料・工法の技術開発を推進するとともに、それらの製品・工法の普及に努める。
- 3 事業活動を進める中で、環境関連の法規制・地域住民との協定など環境保全のために必要とされる事項を遵守する。
- 4 以上のことを踏まえた環境マネジメントシステムを整備し、その継続的改善を図る。
- 5 この環境方針を社員に周知し、環境意識の向上を図ると共に、一般に公開する。

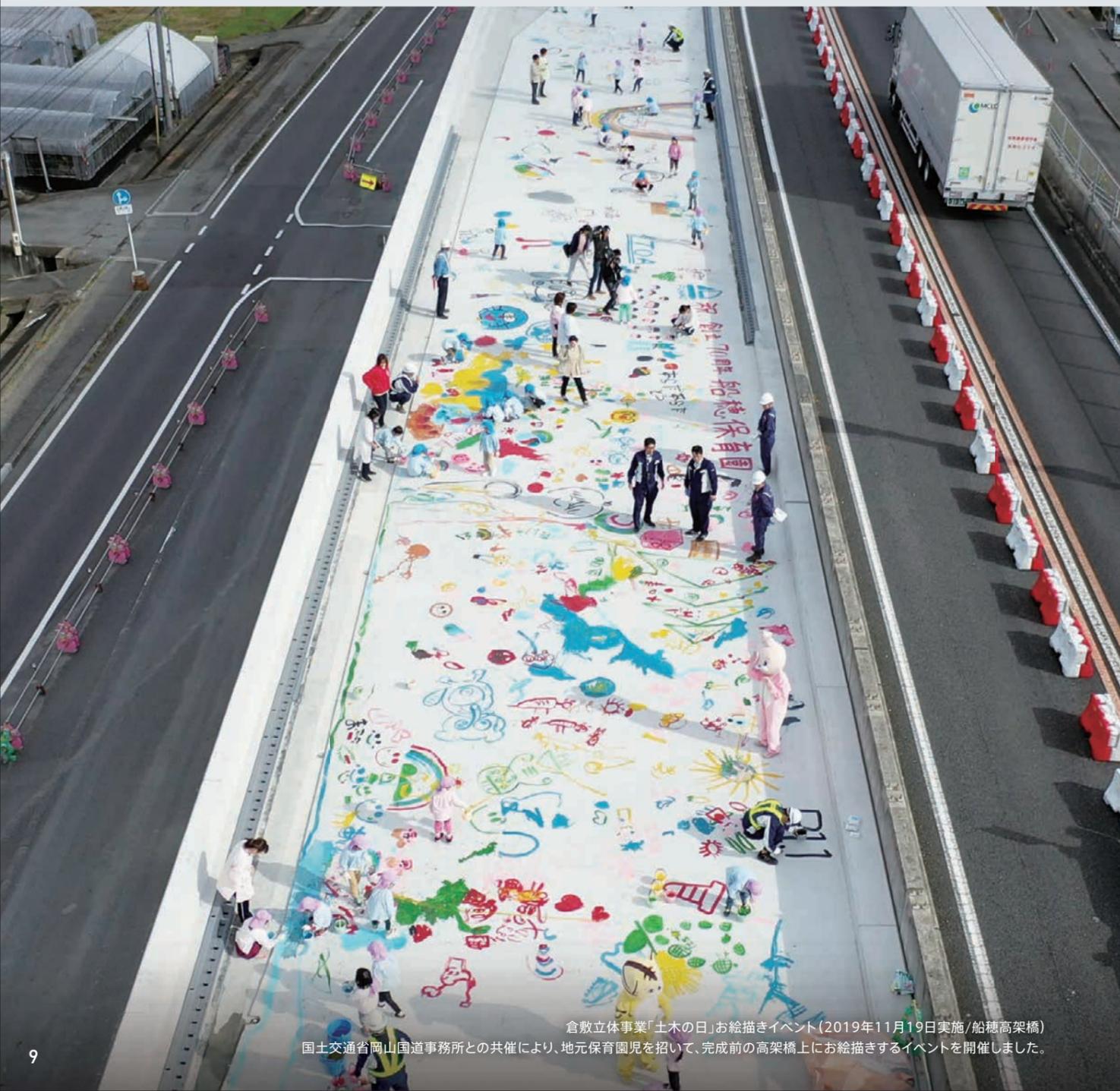
ISO14001認証

ISO14001の全社認証を2008年12月に取得。環境マネジメントシステムを活用して、環境問題に取り組んでいます。



まちの未来づくりへ

当社はインフラの構築・維持を担う企業として、ユニバーサルな交通環境、社会資産である舗装の技術改善を追求し続けています。また、道路への興味喚起や、次世代人材の育成、健康と夢を育むスポーツ振興など、様々なかたちでまちの未来づくりに貢献しています。



倉敷立体事業「土木の日」お絵描きイベント(2019年11月19日実施/船穂高架橋)
国土交通省岡山国道事務所との共催により、地元保育園児を招いて、完成前の高架橋上にお絵描きするイベントを開催しました。



社会的課題を解決するための取り組み



アスファルトによる道路橋鋼床版補強を実現 高剛性舗装「HiRAC 工法」

橋梁や都市内高架橋などに多用されている鋼床版では、局部的な曲げ変形と溶接部への応力集中から疲労き裂が多数発生していることが報告されています。この課題に対し(株)高速道路総合技術研究所と共同開発した高剛性舗装「HiRAC工法」は、これまでのアスファルト舗装では不可能であった、車両走行に伴うひずみを低減する工法です。特殊な施工機械を必要とせず短時間の交通規制で施工が可能のため、鋼床版補強工法としては革新的な技術であり、鋼床版の延命化が期待されます。



すべらない・視認性が高い「EGカラー」に 遮熱性能を追加

『誰でも簡単に施工ができる』をコンセプトで開発されたすべり止め塗料「EGカラー」に遮熱タイプを追加しました。ベビーカーや車いすの利用者は路面に近いので、夏季の気温上昇とともに高温にさらされる環境にあります。すべり止め効果のあるEGカラーに路面温度を下げる遮熱性能を付与することで、歩行者等への負荷を低減し、ヒートアイランド現象の抑制に寄与します。このほか、車道を対象とした遮熱性舗装「ヒートシールド」や酸化熱によって温度上昇を抑制する保水性舗装「モイスタロード」などを開発・販売し、都市の熱環境問題解決に貢献しています。

次世代育成



広島工業高校出前授業

地域の教育機関への学習協力・サポート

子ども達の道路への興味を喚起し、次世代の舗装技術者を育成する観点から、様々な教育機関での学習協力・サポートなどを行っています。

- 東北支社：大船渡市立大船渡小学校へ校内舗装・安全灯を寄贈、光学院イノベーションプログラム(基金)、青森山田学園 創立100周年記念募金協賛
- 北陸支店：除雪機械見学会の実施
- 中部支社：静岡県立沼津工業高校土木科 現場見学会
- 中四国支社：広島県立広島工業高校への出前授業、倉敷立体事業「土木の日」保育園お絵描きイベント
- 技術研究所：日本大学理工学部の学生82名を招き、技術研究所、土浦工場、県南共同アスコン(昭和建設・東亜道路工業・鹿島道路JV)で見学会を開催

02 特集 [Creating Shared Value]

まちの未来づくりへ

スポーツ支援

スポーツ施設づくりに携わり、スポーツの振興を促進する立場から、様々な団体・アスリートのサポートを行っています。



JFA 夢フィールド(当社実績/2019年竣工)

地域のスポーツ振興に協力・協賛

当社は各地域のスポーツ振興に様々なかたちで協力・協賛しています。



女川町多目的運動場ラグビーゴール防護マット寄贈



J3ブラウブリッツ秋田大型映像装置スポンサー



アイリスオーヤマチャレンジカップ東北オープン選手権大会

- 本 社：JFAユメセン支援、東京コースカップ2019協賛、埼玉西武ライオンズ協賛
- 北海道支社：ニセコ町TOAカップ開催
- 東北支社：福島ユナイテッドFCサポートコレクション、PUMA CUP 2019 in MIYAGI 21th協賛、福島民報マッチデー福島復興エキシビジョンマッチ協賛、ビジネスマッチ東北2019協賛、福島ユナイテッドFC応援うちわ、東北地区大学サッカーリーグ協賛、東北社会人リーグ1部コバルトレー女川サポートコーポレーション、TOAチャレンジカップ国際大会協賛、第34回わかさぎマラソン大会協賛、金ヶ崎マラソン大会協賛、J3ブラウブリッツ秋田の大型映像装置スポンサー、秋田サッカー協会広告協賛、第27・28回沼エアポートマラソン広告協賛、アイリスオーヤマチャレンジカップ東北オープン選手権大会協賛、登米市高森公園パークゴルフ場ベンチ寄贈、女川町多目的運動場ラグビーゴール防護マット寄贈、J2 モンテディオ山形応援うちわ、南相馬野馬追の里健康マラソン大会協賛、福島ユナイテッド最終戦広告協賛、福島県テニス協会広告協賛、福島県体育協会賛助会員、福島復興支援サッカー復興エキシビジョンマッチとして
- 関東支社：地元高校生VS「レジェンド&MIFA」の試合を開催、「レジェンド&MIFA」チームユニフォームスポンサー
- 関東支社：國學院大学久我山高校甲子園出場寄付、京王閣広告協賛、城西大学 首都大学野球広告協賛、茗渓学園ラグビー全国大会出場寄付、霞ヶ浦高校甲子園出場寄付、霞ヶ浦杯U-12サッカー大会広告協賛、川崎競輪場広告協賛、松本サマーサッカーフェスティバル広告協賛、綿半フットボールパーク塩尻サッカー大会協賛
- 北陸支店：城下町新発田スポーツフェスタ広告協賛、新発田市総合型地域スポーツクラブ広告協賛、新潟市秋葉区スポーツ協会賛助会員
- 中部支社：名古屋グランパス後援会、三重県サッカー協会協賛、岐阜県サッカー協会広告協賛
- 関西支社：セレッソ大阪堺レディーススポンサー、大阪府サッカー協会「ACTION FOR DREAM」協賛、大学スポーツコンソーシアムKANSAI「KCAA」賛助会員、神戸オープンゴルフ協賛
- 中四国支社：鳥取県陸上競技協会広告協賛、鳥取さわやか車いす&湖山池マラソン大会協賛

地域のスポーツ振興に協力・協賛



許崎充洋(東亜道路工業)



平尾裕希(東亜道路工業)

陸上400m/100m 選手を支援

夢を追い続ける、陸上男子400mの許崎充洋選手(東亜道路工業社員)、陸上男子100mの平尾裕希選手(東亜道路工業社員)の活動を応援しています。



JFA Youth & Development Partner

当社は、JFA(日本サッカー協会)の「Youth & Development Partner」としてパートナーシップを締結しました。サッカーの振興と、次世代を担う選手育成を応援しています。



インクルーシブサッカースクールを応援

インクルーシブとは、障がい者が精神的および身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能にする目的の下、障がいのある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みです。当社は、2020年2月よりインクルーシブサッカースクールを展開しているNPO法人アクティブスポーツに協賛しています。

コミュニティの一員として

当社は全国各地に100を超える支店・営業所・工場を展開しています。それぞれ拠点が地域の住民であり、良き市民企業として、地域との共生・共栄を図るべきとの考えから、地域に根ざした「1事業所で1つの社会貢献」をミッションとして活動を行っています。

コミュニティとの協働

自治体との連携



「かながわSDGs パートナー」に登録

神奈川県と企業が連携してSDGsの普及促進活動に取り組む「かながわSDGsパートナー」に登録。今後さらに連携を強化していきます。

交通安全の啓発、災害予防、防犯への協力



交通安全街頭啓発(北海道支社)

- 北海道支社：交通安全街頭啓発／4～10月の第1金曜日16:50からの30分間、東警察署交通第一課の協力の下、支社前国道275号で交通安全街頭啓発運動を実施。参加者は社員・協力会社を合わせ、毎回約50名が参加。
- 関東支社：港区合同水防訓練／水害を防ぐ訓練に参加。
- 関西支社：災害防止協議会ボランティア団体「RRP(Road Reminder Project)」を結成／SDGs「作る側の責任」を考え、建設業としてやるべきこと、できることを行い社会に貢献。
- 中部支社：名古屋市緑警察署交通安全推進活動／毎週月曜日7:30からの約15分間、県道で、通行車両に対して速度抑制などの注意喚起を実施。

地域文化・行事への協力



各地域の文化振興・行事に様々な形で協力・協賛しています。

- 東北支社：チャグチャグ馬っこ進行行事協賛、桜山神社例大祭奉賛、盛岡さんさ踊りと盛岡花火の祭典協賛、久慈市納涼大会協賛、久慈市秋祭り協賛、福島市土湯温泉町地区都市再生整備計画広告協賛
- 北陸支店：城下町新発田まつり広告協賛、村上市花火大会in清流あらかわ協賛、えちごせきかわ大したもん蛇まつり花火協賛、胎内温泉まつり協賛、佐々木地区祭典協賛

ライフラインを守る取り組み

災害時支援



災害時、道路や空港は避難や救護、物資輸送をするための重要なルートになります。当社では各自治体と「災害時支援協定」を結ぶなど、災害が発生した際、道路の復旧に向けた活動を最優先し、迅速に対応することとしています。

道路の復旧・復興への協力

- 東北支社：国道13号維持工事・施工班が郡山市の災害復旧活動を実施(後日国土交通省より感謝状授与)、台風19号災害に伴う仙台市青葉区荒巻地内市道の土砂崩壊復旧、郡山地区台風19号災害清掃

物資の寄付

- 東北支社：帝京安積高校へ台風19号災害お見舞い金を寄付

交通の安全と、道路を守る取り組み

道路愛護活動・清掃ボランティアを実施

安全・快適な道路環境を守るため、清掃活動や地域参加、啓蒙活動などを行っています。



道路愛護活動(九州支社)



清掃活動(技術研究所)



仙台市 まち美化サポート運動(東北支社)

- 北海道支社：国道275号線道路清掃(1回/月)、近隣市道の道路清掃(1回/月)
- 東北支社：盛岡市愛宕地内、仙台市 まち美化サポート運動(1回/月)、宮城県スマイルロードプログラム(6回/年)
- 関東支社：川越市建設業協会ワカテ経営者部会ロードポート、港区アドプト活動
- 中部支社：岐阜県各務原市周辺清掃(1回/2週)、岡崎アスコン前面道路の清掃(毎週金曜日)
- 九州支社：北方インター公園駐車場美化活動

はたらくことで、拓いていく「道」

東亜道路工業の就職応援ソング「道」を歌うアーティスト こびさんを招いて、次世代リーダー達とクロストーク。夢に向かって道を拓く彼女と、仕事や働く環境、将来について意見を交わします。



関東支社 施工管理担当
三嘴 要介
みつはし ようすけ

GUEST
アーティスト
こびさん

管理本部 人事担当
堀内 豪人
ほりうち ごとと

製品事業本部
及川 真依
おいかわまい

「しごと」について

自己紹介がてら、みなさんの仕事について簡単にご説明いただけますか。

こび 「こび」と申します。シンガーソングライターやYouTuberとして活動しています。少し前までは看護師をしていました。

及川 及川です。2013年に入社し、技術研究所で改質アスファルトや塗料の研究をしていましたが、結婚を機に製品事業本部に移り、現在は営業補佐をしています。



こび 学生時代から音楽活動を始め、卒業後は看護師へ。2019年からシンガーソングライター・YouTuberとして始動。2019年には、こび×東亜道路工業(東亜道路工業公式就職応援ソング)「道」を発表。

堀内 堀内です。入社して6年間は製品の営業をしていましたが、今は採用を担当しています。学生からよく「こびさんの動画を観ました」という声を聞きます。

こび 嬉しいです!ありがとうございます。
三嘴 工事部の三嘴です。今は国土交通省管轄の国道補修工事の現場責任者をしていて、今日も現場から来ました。

子役をされていたとか、Webサイトへの流入ワード上位にお名前が挙がります。
三嘴 (笑) 学生時代までドラマやCMに出たりもしていたので…。

それぞれ転職を経験しておられますが、今の仕事を選んだ理由をお聞かせください。こびさんは、本格的に音楽を始める時、勇気が要ったのではありませんか?

こび そうですね、自分でも驚いています。でも看護師と音楽は心のケアをするという意味で似ている部分があって、これからは

音楽で人を癒やしたり、メッセージを伝えたりしようと決めて、音楽に集中することにしました。最初は家族や友人に心配されましたが、看護師の経験があるからできる、これまでの時間は何も無駄ではないと伝えて、今は応援してもらっています。

三嘴 私の場合は、実家が建設会社で、父の背中を見て育ったことが一番大きいですね。東亜道路工業の、温かく迎えてくれる雰囲気的魅力で入社しました。

堀内 私は古代日本史を専門にしている、首都の道路の役割を研究したことがきっかけで、リアルな道路の世界に飛び込みました。私も会社の温かさを感じる事が多く、「学生に会社の良さや仕事の面白さを伝えたい」と希望を出したところ、認めていただいて採用担当になりました。

及川 私は化学をやってきて、多くの人の役に立つことがしたいと思って、インフラを造る会社を選んだんです。高速道路で

使う改質アスファルトの開発では、2年かけて百何十種類と調査しました。この業界は、少しずつ女性も増えていますけれど、まだまだ少ないので学会で発表するだけでも注目されやすいですね。

異動して考え方に変化はありましたか?
及川 いえ、異動しても、「みんなが使えるもの」「課題を解決するもの」を提供するという目線は同じですね。変わりません。

みなさんは、どんなことを仕事のエネルギーにされていますか?

こび 私の場合、SNSのコメントなどで反応が見えるのすごく励みになっています。頑張ろうという気持ちになりますね。

堀内 当社とコラボしてくださった「道」にも、ポジティブなコメントが多いですね。

こび ありがとうございます。東亜道路工業さんは、長い歴史があって、働いている方も明るくて優しい方だとイメージしたので、それを歌に表現したかったんです。

堀内 学生さんに会社を理解してもらえ、またそういう人が入社を決めて、内定式に迎えられることが、私は嬉しいです。

三嘴 以前、たまたま訪ねた店で、自分が携わった道について「あの道路ができて便利になった」と聞いたことがありました。その時は、仕事をして良かったと思いましたね。

働く環境について

こび 先ほどからみなさんが「温かい雰囲気」だとおっしゃいますが、東亜道路工業さんはずっとそういう雰囲気なんですか?

堀内 会社は90周年を迎えますが、昔から社風は変わらないと聞いています。

及川 コミュニケーションの機会は多いですね。コロナ前は会食も多かったです。良い意味でフラットで、社長や役員の方が日常的に話しかけてくれるような会社です。

堀内 社外に対しても信頼関係を作ること大事にしています。現場には年上の方も16、17歳の方もいますが、どの人とも同じように接することを心がけています。

こび 採用の際も、学生さんに対して心がけていることはあるんですか?

堀内 学生に限らないのですが、私は相手の話を否定しないと決めています。必ず一度、相手が考えていることを受けとめると、自分と違う考えを吸収できるので。また、やりたいことをやらせてくれることも、この会社の特長だと思います。しかも頑張っている人を一人にしないんです。若手が頑張っていたら先輩がフォローしますし、部門が違ってもしっかりと見てくれます。相互に、自然にやっているんです。



ただ、実際にはそういう機会はあまりないので、モチベーションはもっと単純です。舗装したての真っ黒な道に白い区画線が引かれた時に、「ああ、新しい道路が出来た」って実感できるんですよ。一番達成感を感じる、良い瞬間です。

及川さんは育児休暇経験者ですが、休暇の取りやすさなどはいかがでしたか?

及川 私の世代ではまだ結婚・出産を経て働いている女性社員が少ないので、「私が道をつくる」という気持ちで規程を読み直しました。モノの見方や考え方も変わりました。今は育児短時間勤務制度を使って

勤務していますが、私自身は今後も働き続けたいと思っていますから、仕事に復帰できたことは良かったと思っています。

三嘴 男性でも、育児休暇を取ることを考えたいと思います。そういうことは、私たち世代から挑戦していくべきなんじゃないかな。

自分が拓いていく道

今後、みなさんが仕事を通してやりたいと思うのはどんなことですか?

及川 上の世代と若手社員、技術者と本社を、つなぐような役割でいたいんです。

堀内 当社は一般的に知名度が高いというより縁の下の力持ち的なポジションですので、今後は様々な情報を発信しながら、学生との距離を縮めていきたいです。また、入社してくれた人達が仕事を楽しめる雰囲気を作っていきたいですね。

三嘴 工事の人間としては、業界のマイナスイメージを変えたいです。オフィスにいられる仕事ではないですが、色々な人と一緒に、話し合いながら現場をつくっていくのはとても楽しいんです。ひとつとして同じ現場はないですし、臨機応変に対応していく面白さがあります。

こび 現場の方って本当にかっこいいと思うんです。女性で現場に立たれている方もいらっしゃるんですが、憧れますね。

東亜道路工業の社会的役割という側面からはどうお考えですか?

堀内 道路業界は、地域の経済を根底から支える存在です。私は東日本大震災後に宮城で仕事をしましたが、何もない状態から、まずは道路を復旧させるんです。道路がないと物資も運べません。道路の周りに住宅ができ、人が戻って復興していく。そういう存在なんだと知ってほしいですね。

及川 そういうものだからこそ、時代に合わせて進化させなくてはならないですね。アスファルト舗装の歴史は百年以上ありますが、分からないことも沢山あります。そこを開拓していけたらいいですね。

製品・工法開発、生産、施工・メンテナンスまで一貫する会社は稀有だと思います。頑張ってください。ありがとうございました。

より安心で安全な職場へ



人権・労働慣行

人権について(基本方針)

東亜道路工業グループでは、国籍、年齢、性別、障がいの有無などに関わらず、すべての人の尊厳が守られ可能性が発揮できる企業を目指し、人権と人格を尊重する取り組みを推進しています。

- 人権と人格を尊重し、不当な差別や各種ハラスメントを排除して、公正な処遇がされる職場環境をつくります。
- 心身ともに健康で、安全で安心していきいきと働くことができる職場環境を築きます。
- ダイバーシティを推進し、すべての人が率直に意見や行動をしめせるよう、お互いの考え方や立場を尊重し、自由闊達で風通しの良い職場風土の醸成に努めます。
- 一人ひとりが仕事に誇りと責任を持ち、個性を発揮しながら自立的に目標をチャレンジし、自身の成長とともに、ゆとりと豊かさを実現できる活力ある企業グループを目指します。

アクションプログラム

2024年度を計画達成の最終年度とし、段階的に4週8休を実現する。

年度	工事/製品
2018年度	4週5閉所60%以上 達成
2019年度	対象事業所の100%が4週5閉所の実施
2020年度	4週6閉所60%以上
2021年度	対象事業所の100%が4週6閉所の実施
2022年度	4週7閉所70%以上
2023年度	対象事業所の100%が4週7閉所の実施
2024年度	対象事業所の100%が4週8閉所の実施

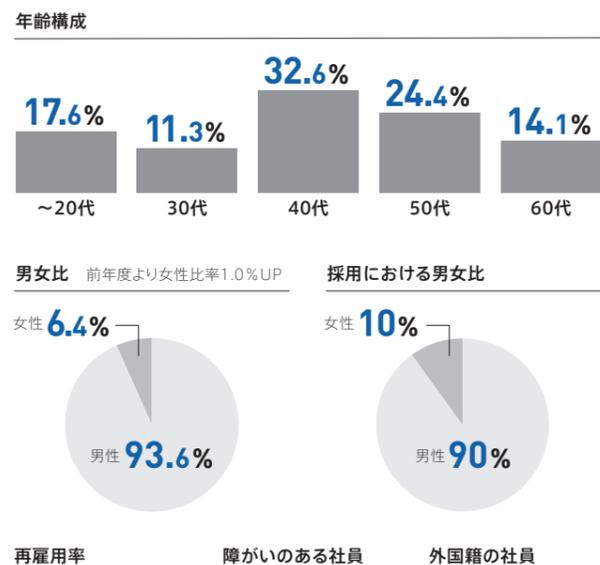
具体的施策

- 適正な工期の設定
- 工期ダンプの排除
- 下請契約の取り組み
- 協力業者への周知・要請
- 給料体系の見直し
- 生産性向上
- 就業時間管理のシステム化
- 閉所実績確認・指導



ダイバーシティ & インクルージョン

当社は、多様な人材がいきいきと活躍できる自由闊達な企業風土を目指しています。



すべての従業員にスキルアップの機会を

入社時から管理職に至るまで、段階的あるいは専門特化した様々な研修機会を用意しています。モチベーションアップのための資格取得支援制度の他、技術研究所で独自に英語力レベルアップの助成制度を設けるなど、ユニークな取り組みを進めています。

女性が活躍できる職場へ

女性工事課員採用や管理職への登用を積極的に進めるなど、ジェンダーの格差なく活躍できる職場づくりに取り組んでいます。

障がい者の雇用

障がいのある方も、それぞれの条件に応じたワークスタイルで働き、やりがいを得られる職場環境づくりに努めています。

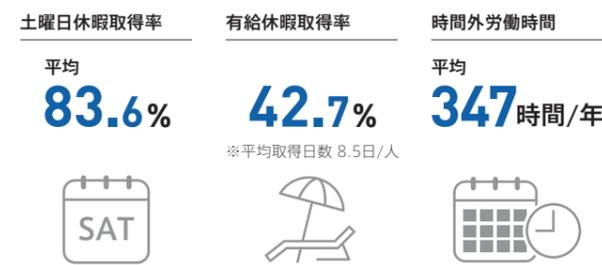
再雇用制度・高齢者の雇用

従業員の希望があれば定年退職後も技術や経験を活かして活躍できるよう、再雇用制度を設けています。また、高齢者の社会参加を促進する観点から、現場や工場の軽作業に高齢者雇用を進めています。各事業所において、豊富な知識と経験を基に積算業務、施工管理、安全管理等について教育・指導を行っています。

ワークライフバランスの向上

休日取得の推進・奨励、残業時間の縮減

「就業情報システム」において本社総務部が従業員の勤務実績や時間外労働の状況を把握し、残業時間削減や有給休暇取得率の向上を促進しています。2024年度を最終年度とするアクションプログラムを遂行し、2019年度は全事業所の4週5休制を実現しています。



多彩な休暇制度

多彩な休暇制度を設け、社員の、公私にわたるいきいきとした生活を応援しています。(下記は休暇制度の一例です。)

- ボランティア休暇
- 裁判員制度に関する休暇
- 災害休暇
- リフレッシュ特別休暇 (勤続10年/25年社員)

育児休暇取得の奨励

当社では、育児休暇制度の周知と利用の奨励に取り組んでいます。



介護休暇取得の奨励

要介護状態にある家族を介護するための休暇制度を設け、周知を行っています。2019年度にはのべ9日間の利用がありました。



労使関係の維持

社員による労働組合を組織し、会社との情報共有や労使一体での課題解決を積極的に行っています。

本部では年2回、労働組合と企業による「労使懇談会」を実施し、建設的な意見交換をしております。2019年度は、8月と3月に実施。各支社においても「地方労使懇談会」を設置し、8支部それぞれ年1回ずつの会合を行っています。さらに、経営層と社員との間で、「意見交換会」を行い、会社の目指す方向を理解し、社員一人ひとりが経験や能力を最大限に発揮できる環境づくりを目指しています。

従業員の健康推進

会社が健全な成長を続け理念実現に向かうためには、全従業員とその家族の心身の健康が大前提であると考え、様々な健康推進施策を行っています。

健康診断・ストレスチェックの実施

全社員に対して、健康診断とメンタルヘルスクアを実施しています。積極的な働きかけにより、健康診断受診率は100%を達成しています。メンタルヘルスクアについては、全社員を対象にストレスチェックを行い、社員本人にその結果を通知して自らの状況に気付きを促し、不調のリスクを低減させます。また、結果を集团的に分析し、職場環境の改善につなげています。

健康推進イベントの実施

当社では、社員の健康推進とコミュニケーションおよびストレスケアを目的として、2001年より、毎年「社内ウォーキング大会」を行ってまいりました。2019年度「社内ウォーキング大会」には129名が参加し、89名に完歩賞を贈呈しています。また、官民連携プロジェクト「FUN+WALK PROJECT」に参画しています。

ハラスメントの防止に関する規定

ハラスメントのない職場を構築するため、「ハラスメントの防止に関する規定」の整備・運用を行い、発生を予防しています。発生した場合は、公益通報窓口を通して相談等を受けておりますが、相談件数は年々減少しています。

労働における安全衛生

当社は、建設業労働安全衛生マネジメントシステムを導入し、システム運用にかかる従業員の職務、責任および権限を明確化、明文化するとともに、PDCAサイクルを回し、安全衛生水準を自主的・継続的に向上させることに取り組んでいます。

管理目標

- 死亡災害ゼロ (リスクレベルⅣ)
- 重機災害ゼロ (リスクレベルⅢ・Ⅳ)
- 墜落転落災害ゼロ (リスクレベルⅢ・Ⅳ)
- 土砂崩壊災害ゼロ (リスクレベルⅢ・Ⅳ)
- 労働災害の発生件数を2017年比15%低減 (13件以下)
- 交通災害事故の発生件数を2017年比15%低減 (20件以下)

安全衛生大会

各事業所毎に、年1回「安全衛生大会」を開催し、管理方針や計画などの周知と、現場作業所・協力会社などの表彰を行っています。

安全にかかわる教育研修、指導

安全衛生大会で外部講師を招き「安全衛生講習」を行うほか、職長等教育・特別教育などの研修を行い、現場への安全の徹底と災害防止を図っています。

下記は昨年行った研修の一例です。

- 熱中症予防指導員研修
- 職長等教育
- 安全衛生推進者教育
- 各種特別教育
- 救急救命講習
- 役員による安全パトロール (年1回以上)
- 店社安全パトロール (月1回以上)
- 工場の油分流出時緊急事態対応訓練 (年2回)
- 女性社員による安全パトロールの実施



AED使用説明会



消防訓練

交通違反撲滅



社用車全車にGPS車載機を搭載し、車両の運行状況を把握する「e-テレマ」を導入しています。急発進・急ハンドル・スピード違反等の危険挙動検知による抑止効果によって、安全運転ならびにコンプライアンス向上に役立っています。SDカード取得率は、目標90%に対して、88%までを実現。あわせて、燃費向上や排ガス抑制効果が認められています。

SDカード取得率 (Safe Driverカード)



災害発生時の対応

大規模事故・災害発生時、停電・断線・輻輳による通信網の障害を想定し、安否確認システムを導入。また、本社及び各支社に衛星携帯電話を配置し、速やかに被害状況の把握と事業継続・復旧ができるよう備えています。



感染症対策

コロナ感染症の流行を受けて職場環境を改善し、リモートワークを推進しております。本社・各事業所においては消毒液・体温計の設置、マスク着用の徹底、三密対策として換気の徹底、会議室やオフィスへのアクリル板設置、会議の少人数化・短時間化、ソーシャルディスタンス確保等の対策を適宜行い、感染予防に取り組んでいます。



コーポレートガバナンス

基本的な考え方

東亜道路工業グループは、上場会社コーポレートガバナンス原則に則り、公正かつ透明な企業活動を遂行し、ステークホルダー(利害関係者)から信頼される社内体制を整備することが重要であると認識しております。

そのため、迅速かつ的確な経営の意思決定がなされ、それに基づき業務の遂行がなされる経営体制を構築するとともに、適正な監督・監視の機能及び各種経営情報の適時開示により透明性を確保し、総合的にコーポレートガバナンスの充実をはかっています。

コーポレートガバナンスの詳細につきましては、年1回、コーポレートガバナンス報告書を当社ホームページに公表しております。

コーポレートガバナンス報告書 <https://www.toadoro.co.jp/ir/>

経営理念・経営戦略等の情報開示

当社の経営理念は、「長年培った技術力を背景に、独自性を発揮し、社会のニーズに応え、安心・安全な社会の実現に貢献します。」となっております。当社は、中長期の企業価値向上の実現のため、「中期経営5ヶ年計画」(2017年4月～2022年3月)を策定しており、経営理念や経営戦略・経営計画につきましては、決算説明資料などの開示資料、当社ホームページに公表し説明を行っております。

中期経営計画 <https://www.toadoro.co.jp/ir/>

経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織

当社は、取締役会が経営上の意思決定と執行・監督を行い、監査役会が監査する「監査役設置会社」です。取締役関係の構成は次の通りです。

取締役	員数(定款上の人数)	7名(10名)
	社外取締役※独立役員	2名
	任期	1年
監査役	員数(定款上の員数)	3名(4名)
	社外監査役	2名

取締役会は、各事業部門全体を、適材適所の観点より総合的に検討して選出しております。効率性の高い経営システムを構築するための適正な規模を考慮すれば、取締役は10名以内が適切であると考え、定款に定めております。

当社は全ての取締役、監査役を対象としたアンケートを用いて、取締役会の実効性を分析・評価しております。結果並びに意見はすべて取締役会に報告し、実効性の維持・向上に努めてまいります。

株主との建設的な対話

管理本部担当取締役のもと、広報担当である総務部長、経理部長が窓口となり、事前に両部門で協議し連携して対応しています。また、個別面談以外の株主との建設的な対話を促進するための体制整備・取り組みに関する方針の策定及び開示については今後検討していく予定です。株主からの意見や要望については、担当取締役にて報告し前向きに検討しております。また、インサイダー情報の管理には十分注意して従来より対応しております。

公正な事業慣行

内部統制システム

東亜道路工業グループは、変動する企業環境の中で、企業としての社会的責任を果たしつつ、事業を取り巻くリスクを管理し企業価値を高めるため、内部統制の適切な構築、運用に取り組むことが重要と考えております。内部統制とは、企業がその業務を適正かつ効率、効果的に遂行するために統制活動に関わる人々の行動を統制するしくみであると考えております。

推進組織として、内部統制委員会、中央安全衛生委員会、コンプライアンス委員会を設けております。また、CSR経営をより実効性のあるものとするためCSR推進本部を設置しております。金融商品取引法に定められた、財務報告にかかる内部統制報告制度の実施のために、J-SOX委員会を設置し、財務報告の信頼性確保の観点から、業務リスクの軽減と業務改善を実施しております。グループ会社の経営については、コンプライアンス体制を含めた経営全般についてのモニタリングを行っており、事業内容の定期的な報告と重要案件については、社内規定に基づき事前に当社と協議を行っております。

行動規範

東亜道路工業グループのすべての役員及び社員が日常の活動においての判断基準や取るべき行動を定めたものが、「東亜道路工業グループ行動規範」です。各種法令及び社内規程等を遵守することはもとより、高い倫理観と良識をもって行動するための規範を定めたものです。この行動規範を実践することで社会的責任を果たし、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

また、「行動規範」のポケット版を作成して役員及び社員一人ひとりに配布し、携帯させることで常時目にするように努めています。

持続的な成長を目指して

品質向上のために

品質方針

お客様に満足と信頼をお届けするために、「人と技術のレベルアップ」を基本とし、品質の確保・向上は当社のお客様への最大の貢献と考え、以下のことをテーマに実践します。

1 「ニーズの一步先へ。」

お客様の声に耳を傾け、個々のニーズに柔軟にお応えするソリューション営業への取り組み。

2 「時代の一步先へ。」

お客様と接する社員にも付加価値が増える創造と行動力を持てる、より実践的な人材育成への取り組み。

3 「人と技術のレベルアップ。」

長年培った技術力を背景に、独自性を発揮し、工事・製品の品質確保や工法の改良に関わる全社的な教育訓練、研修および技術開発に役立てていく取り組み。

以上のことを踏まえた品質マネジメントシステムを整備し、その継続的改善を図る。

品質マネジメントシステム

- 外部・内部の課題を、毎年、業務部門別に経営リスクの洗い出しとして実施し、これらの情報を監視し、内部統制委員会でレビューします。内部・外部の課題を把握し、リスクを低減させ、利害関係者の満足度と信頼の向上に努めます。
- 内部監査は、毎年、年1回以上を品質環境システム室及び各部門長により、各支社、事業所、工場、特定現場で確実に実施しており、PDCAサイクルを確実に回し継続的な改善を図っています。
- 品質方針に掲げている「人材育成」の取り組みとして、年度初めに教育訓練計画表を作成し、社員の能力向上の育成に取り組んでいます。
- 顧客満足度の向上を図るため、顧客アンケートを実施し、その結果を事業所で話し、更なる顧客満足度の向上につなげています。
- 経営者（トップマネジメント）によるマネジメントレビューは、年1回、昨年度の結果を踏まえ、変更および見直しを実施し、品質マネジメントシステムおよびプロセスの有効性の改善を行っています。

海外留学生のインターンシップ



カメルーンからの海外留学生を受け入れ、アスファルト混合物の配合設計など技術指導を行いました。また、舗装技術や文化などについて意見交換を行い、相互理解を深めました。

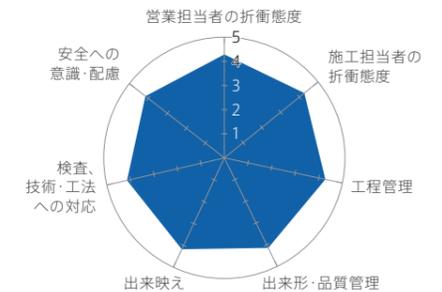
お客様アンケート

お客様アンケートの結果について

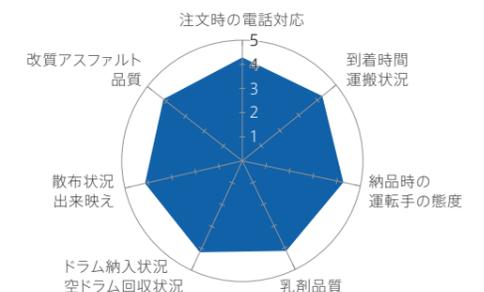
(品質環境システム室)

当社では、各部門において「お客様アンケート」を行い、その結果および工事評価点について社内ネットワーク等で全社に共有し、周知・改善を図っています。また、ご意見やクレームについても顧客満足度調査対応会議等で話し、対応策を図り、改善・継続あるいは再発防止に取り組んでいます。2019年度の調査結果は下記の通りです。85%以上のお客様から「ほぼ満足」以上の評価をいただいている結果となりました。

■ 工事部門 (41 営業所) 調査件数 1080 件

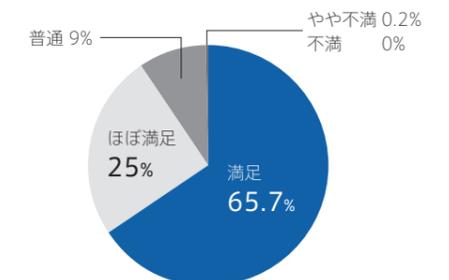


■ 製品部門 (19 工場) 調査件数 562 件



※ 満足5 / ほぼ満足4 / 普通3 / やや不満2 / 不満1 ポイントとして回答数の平均値を計算

■ 工事部門 (7センター) 調査件数 163 件



行動規範 (概要)

倫理行動指針

- ① 全ての法令およびその精神の遵守
- ② 公正・透明・自由な競争を通じた企業活動
- ③ 自己責任原則の徹底
- ④ 環境保全と技術の進歩発展への努力
- ⑤ 事故、災害の撲滅

企業倫理・技術者倫理の確立

- ① 「倫理行動指針」、社会の基本ルールへの遵守
- ② 高い技術者倫理の確立と個人情報保護

行動規範遵守のための措置

- ① 従業員への周知徹底
- ② 従業員等、経営トップの責任
- ③ 原因究明、再発防止、情報公開と説明責任

社会的役割を果たす

- ① 社会資本整備を担う立場の自覚
- ② 人を大切にする産業への努力
- ③ 地球環境改善への取り組み
- ④ 社会貢献活動
- ⑤ コミュニケーション活動と情報開示

法令遵守の徹底

- ① 全ての法令の遵守と違反行為の禁止
- ② 独占禁止法等の遵守
- ③ 建設業法の遵守
- ④ 産業廃棄物処理関連法規の遵守
- ⑤ 政治資金規正法、公職選挙法等の遵守
- ⑥ 反社会的勢力への姿勢
- ⑦ 企業会計の透明化、健全化

独占禁止法違反防止体制・着実な運用

当社は過去に独占禁止法違反により公正取引委員会から排除措置命令及び課徴金納付命令を受けました。かかる事態を受けて当社では様々な再発防止対策を策定して現在も継続して実施しております。

特に「営業活動予定・実績表」の運用は営業活動を行う全ての社員・役職者はもちろんのこと、同業社と面会する機会を有する者も対象となり、自身の行動予定は上位者及び法務担当者の承認を受け、さらに実績を報告することを義務付けています。また、電話・FAXにおいても同様として独占禁止法に抵触する言動が行われないようチェック機能を充実させています。

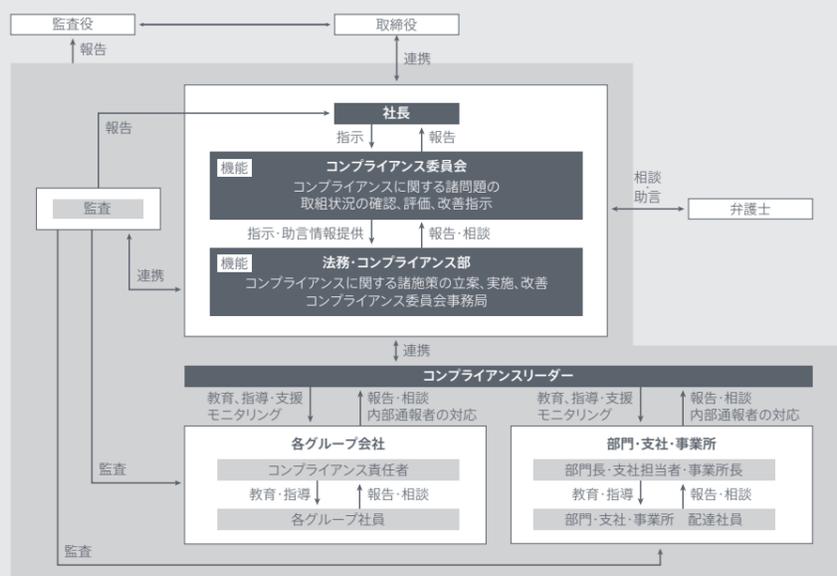
ホットライン (内部通報制度)

社員等からの相談または通報の適正な処理の仕組みを定め、不正行為等の早期発見と是正を図り、コンプライアンス経営の強化に資することを目的として「内部通報制度」を設け、通報を行った者に対する不利益な取扱いがないよう適切な措置を取っています。本制度の周知徹底とあわせ、弁護士等の専門家による「外部通報窓口」を設置し、「公益通報規程」の整備、改定を行っています。実効性のある制度であり、2019年度は3件の相談を受けています。

リスク管理体制

内部統制委員会、コンプライアンス委員会、及び中央安全衛生委員会とCSR推進本部のリスク担当部門が連携し、リスク管理にあたります。また、事業に関連する内外の様々なリスクを適切にコントロールすることを目指して「経営リスクの洗い出し」を実施しています。東亜道路工業グループの役員及び従業員等が自ら関係するリスクの内容及び対策を熟知し、的確な行動が取れるよう、本回答結果を全社員に開示するとともに、事業所におけるコンプライアンス研修会並びに定例会議等の場を通じて浸透を図っています。

コンプライアンス体制



コンプライアンス委員会の役割

- ・推進計画に基づく取組の実施・指示
- ・実施状況の評価、改善の指示
- ・取組に対する助言、情報提供

コンプライアンスリーダーの役割

- ・部門のコンプライアンス体制確立に向けての支援・指導
- ・内部通報者の対応
- ・事業所独自の取組状況等の報告
- ・部門のコンプライアンス実施状況のモニタリングおよび法務・コンプライアンス部への報告

法務・コンプライアンス部の役割

- ・倫理方針、行動規範集、内部規定の文書作成
- ・改定の統括
- ・リスクの洗い出し、対策立案などのコンプライアンス実施計画全般の遂行統括
- ・各種法令を把握し、役職員の必要に応じてアクセスできる状態を維持
- ・コンプライアンス教育の実施
- ・コンプライアンスに関する報告・相談業務
- ・各部門との調整連絡

関連会社のCSR

株式会社トーア物流

ホームページ作成で障がい者支援

ダウン症の方の社会参加・就職の支援活動を行う企業に、自社ホームページ制作を委託しました。仕事を通して、障がいのある方の社会参加の一助とすることを目的としています。

株式会社敷島組

災害協定

自治体などと災害協定を結んでいます。

- 大分県大分土木事務所、大分県建設業協会大分支部、大分県建設業協会玖珠支部
- 大分市 大分県建設業協会大分支部、西日本高速道路(株)大分高速道路事務所 大分県道路舗装協会

小規模集落応援隊

大分県中部振興局地域創生部に協力し、毎年、玖珠地域の集落において道路の清掃及び草刈りその他の応援業務を行っています。

株式会社YOKOTA

道路の美化活動

島根県公共土木施設愛護ボランティア「ハートフルしまね」に登録し、毎年2回、国道の美化活動を行っています。

富士建設株式会社

寄付

- 国立アイヌ民族博物館(ウポポイ)開館に伴い、付近の町道に薄層舗装を施工
- 登別市へ、運動公園駐車場の白線引き直し
- 室蘭市社会福祉協議会に10万円寄付(2010年より/9回目)
- 地域の祭り・大規模イベントの際、カラーコーンによる路上駐車防止に協力



リサイクルの促進

2008年より、廃食油再生燃料化装置を稼働させ、地域の公共施設・飲食店より廃油を回収してバイオディーゼル燃料(BDF)を製造。自社機械等に使用しています。

地域貢献

- 室蘭市まち「ピカ」パートナーに参加
- 毎年、登別支店付近沿道の花壇に花を植えています。

株式会社富士グリーンテック

もったいない市開催

毎年4月、『もったいない市』を開催し、建築・造園施工現場の余剰資材を安価で地域の皆様に提供。『MOTTAINAI』精神で、資源の3Rを積極的に進めています。



「どんぐり教室」開催

県内の小学生・幼稚園児を対象に、『どんぐり教室』を開催。御勅使南公園で採取したどんぐりを育て、園内に植林しています。



障がい者支援

御勅使南公園内のゴミ拾い・分別作業を障がい者施設の寮生に委託発注しています。

「森の樹(こ)育て」活動

御勅使川沿いのアカマツ林を、害虫被害に強い「抵抗性マツ」や、どんぐり教室の「どんぐり」に植え替える活動を行っています。

地域清掃活動

社屋周辺のゴミ拾い・側溝清掃(月1回)

若葉建設株式会社

社会貢献・地域貢献

- 宮城県防災指導員 認定者2名
- 仙台まち美化サポート活動
- アレマキャンペーン(クリーンキャンペーン)活動
- ザ・ピラトルズ(仙台市違反広告物除却推進団体に認定)
- 市内の防犯パトロール活動 ほか、宮城県建設業協会、仙台建設業協会の社会貢献活動に協力・参加しています。

環境配慮

環境配慮型工法や工事のPR営業と受注活動、産業廃棄物排出量の削減及びリサイクルの促進、アスファルト合材のロス率の改善、電力使用量の削減など、ISO環境マネジメント活動に則った活動を行っています。

高齢者雇用

65歳以上2名、75歳以上1名の雇用

ISO26000中核主題との対比表

ISO26000「社会的責任に関する手引き」の7つの中核主題に該当する項目を示しています。

ISO26000の中核主題	課題	2020レポート	TOA:企業情報 IR:株主・投資家情報 CSR:CSR情報
組織統治	課題1:組織統治	P3 トップメッセージ P20 コーポレートガバナンス	TOA:組織図 IR:コーポレートガバナンス報告書
人権	課題1:デュー・ディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回復 課題4:苦情回復 課題5:差別及び社会的弱者 課題6:市民的及び政治的権利 課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題8:労働における基本的原則及び権利	P17 人権・労働慣行 P20 公正な事業慣行	CSR:コンプライアンス(企業倫理) CSR:人権とはたらく環境
労働慣行	課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護 課題3:社会対話 課題4:労働における安全衛生 課題5:職場における人材育成及び訓練	P15 はたらくことで、 拓いていく「道」 P19 労働における安全衛生	CSR:人権とはたらく環境 CSR:安全の徹底
環境	課題1:汚染の防止 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4:環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	P6 環境負荷軽減に寄与する製品・工法の開発 P7 資源の再利用 P8 ライフサイクルコストの低減 P10 社会的課題を解決するための取り組み	TOA:東亜道路工業の歴史 CSR:環境との共生 CSR:コンプライアンス(企業倫理)
公正な事業慣行	課題1:汚職防止 課題2:責任ある政治的関与 課題3:公正な関与 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5:財産権の尊重	P20 公正な事業慣行 P21 コンプライアンス体制	CSR:コンプライアンス(企業倫理)
消費者課題	課題1:公正なマーケティング、 事実即した偏りのない 情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題4:消費者に対するサービス、 支援、並びに苦情及び紛争の解決 課題5:消費者データ保護及びプライバシー 課題6:必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7:教育及び意識向上	P22 品質向上のために P22 お客様アンケート	CSR:品質とお客様満足 CSR:コンプライアンス(企業倫理)
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	課題1:コミュニティへの参画 課題2:教育及び文化 課題3:雇用創出及び技能開発 課題4:技術の開発及び技術へのアクセス 課題5:富及び所得の創出 課題6:健康 課題7:社会的投資	P10 次世代育成 P11 スポーツ支援 P13 コミュニティとの協働 P14 ライフラインを守る取り組み P25 1人ひとりのCSR	CSR:人権とはたらく環境 CSR:社会との共生

第三者意見



金沢工業大学
SDGs推進センター長
平本 督太郎氏

東亜道路工業グループのCSRの取り組みに対して、本グループCSRレポート2020の記載事項をベースに第三者としての意見を申し上げます。

まず、東亜道路工業グループの2年目のレポートとして、初年度の課題に真摯に向き合い、着実に対応をされたことを高く評価いたします。

昨年度のレポートでは、①ビジネスと人権に対する更なる進展、②インフラ老朽化・気候変動起因の災害対応への更なる対応、③SDGs未来都市を中心とする自治体との連携の推進、④レポートと国際的なガイドラインとの照合、⑤2030年の理想の姿の描写、と5つの課題を明示いたしました。このうち②、③、④、⑤という4つの課題に対しては具体的な対応の進捗が読み取れ、大変素晴らしいと思いました。特に②については、自社の強みである技術開発を通じた貢献が記載されたことから、社会からの期待に積極的に応えていく東亜道路工業グループの前向きな姿勢が示されていると感じました。

⑤では日本政府において2050年までに二酸化炭素ネット排出量ゼロ(カーボンニュートラル)にするという政策目標が表明され、日本が国際的な動向に協調する中で、企業各社での具体的な貢献目標の提示が求められていくと考えられます。そのため2050年のカーボンニュートラルの実現という共通目標からバックキャストし、マイルストーンとしての2030年の目標を具体化していただければと思います。また、それにあわせて、マテリアリティ(重要課題)の選定と明示が直近の課題となると考えられます。抽出したマテリアリティとSDGsのゴールとの紐づけ、各マテリアリティに対する今後の取り組みの方向性を示すことにより、自社のみならず、関連会社、取引先等を含めた自社を中心としたバリューチェーン全体での一貫性のあるCSR活動の推進を促すことができるようになると考えられます。本レポートにおいても、2024年度に向けた4週8休の段階的な実現と進捗状況が明確に示されており、同様にそのほかの取り組みについても、今後マテリアリティを核として、中期的でかつ具体的な目標とその進捗状況のモニタリング結果が本レポートを通じて共有されることで、多くの人が東亜道路工業グループの技術開発という強みを持つ発展可能性についてさらに理解を深めることができると考えられます。2年目において大きく進歩した東亜道路工業グループのCSRレポートが引き続き発展していくことに期待いたします。

労働組合の活動を通じラオス人民民主共和国に緊急衣類支援を行っています。

東北支社 技術センター / 瀬戸沙耶香



会社でのCSR及びSDGsの研修を受けて、自分自身仕事でも私生活でも取り組む必要性を感じ、CSR検定3級を取得しました。

東北支社 宮城工場 / 吉田真幸



中四国支社 広島工場 / 尾崎秀一

常に充電することで頻繁に交換する必要のない充電式電池を使用しています。

中部支社 名古屋工場 / 新谷延芳

環境保護、生物多様性保全の取り組みとしてキャンプ仲間とキャンプ地付近の港や河川でゴミ拾いを定期的に行っています。



ボランティア休暇を利用して介護施設でボランティア活動をしています。

関東支社 北関東支店 / 橋本恵理

買物では食材に必要な量だけ買い、ロスを出さずに使いつけるよう心がけています。

本社 技術本部 / 行徳瑞乃

CSR推進本部 / 棚橋滋男

売り上げの一部が途上国の子どもたちの学校給食に寄付される国連WFP協会のレッドカップキャンペーンマークの付いている商品を優先的に購入しています。

本社 工務本部 / 大場拓也

常にステンレスストローを携帯し、廃プラスチック削減に心がけています。

地元の吹奏楽団の一員として保育園、介護施設、養護施設でボランティア演奏をしています。

本社 営業本部 / 石川なつめ



台風19号で被災した宮城県丸森町の民家で泥のかき出し等の清掃作業ボランティアを行いました。

東北支社 / 宮城工場有志



技術研究所 / 新井崇史

職場周辺の清掃活動を提案し、職場の同僚と毎月行っています。

食品を購入する時フェアトレード認証ラベル製品を優先的に購入することを心がけています。

北海道支社 管理部 / 中川浩司

50回以上の献血者が、60歳を超えて最初の献血時に送られる感謝状です。昨年12月で60歳になり、本年1月5日、190回目の献血をした際に頂戴しました。

CSR推進本部 / 竹内良彦



舗装のリサイクル、再生合材の品質向上について研究しています。

技術研究所 / 佐川聡

